

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 I

アヘン戦争や第2次アヘン戦争に敗北し、不平等条約を結ばされた清では列強の侵食が進んだ。これに対し西洋の近代的技術を取り入れる洋務運動が進められたが、国家体制の改革は進まなかった。日清戦争にも清が敗北すると、その弱体化を見た列強は、租借地を設定するなど本格的な中国分割に乗り出した。清では日本の近代化に倣い政治変革を主張する変法運動が行われたが、戊戌の政変で失敗した。そうしたなか重税に苦しむ清の民衆は、呪術的宗教集団の義和団の教えを信じ、扶清滅洋を叫び外国人排斥を要求して蜂起し、北京の外国公使館を包囲した。清は義和団と結んで列強に宣戦布告したが、8カ国連合軍に敗れた。その結果、清は北京議定書 (辛丑和約)を結び、巨額の賠償金を支払い、外国軍隊の北京駐屯を認めるなど、列国の事実上の植民地化が進んだ。

(350字)

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 II

問 1

2世紀なかごろより倭国で大乱が続いていたことから、諸国が共同して邪馬台国の卑弥呼を女王として擁立し、卑弥呼は呪術的な支配を行った。

問 2

5世紀には南朝に朝貢して冊封を受けることで、倭国王として承認をうけて国内統治を強化すると同時に、朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場における優位性を示そうとした。一方、7世紀には新羅との対抗関係を背景として隋に臣従しない方針に転換し、倭国は中国の先進技術や文化の摂取を図った。

問 3

日本は自身を中華と自認しつつも、実質的には唐に臣従する形式をとった。一方、日本は新羅を従属国として扱おうとしたが、新羅が唐との関係を修復すると日本への臣従を拒否したため、日本と新羅は対立することがあった。渤海は唐・新羅との対抗関係から日本を上位にみたてる形式で関係を維持した。

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題Ⅲ

問 1

- (a) 源義家
- (b) 後三年合戦で東国武士たちを組織化し、勝利した高い軍事指揮能力。
- (c) 上皇

問 2

- (a) とさみなと
- (b) 青森県
- (c) 陶磁器など日本各地の多様な製品が出土している交易拠点。
- (d) 十三湊は若狭国の小浜とは日本海交易を通じた関係にあった。

問 3

名称 足利学校

- (ア) 方言

問 4

随筆名 『北越雪譜』

作者名 鈴木牧之

洒落本の『仕懸文庫』を書いたが、寛政の改革の際に処罰された。

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題IV

問 1

商場 (場所)

問 2

場所請負制度

場所請負制度が進展すると、アイヌの人々の多くは従来の自立した交易相手ではなく、漁場などで和人商人に使われる立場にかわっていった。

問 3

赤蝦夷風説考

幕府はロシア人の蝦夷地への南下を警戒しつつ、最上徳内ら調査団を派遣し、蝦夷地の開発と、将来的なロシアとの交易の可能性を探った。

問 4

日露和親条約締結以来、樺太は日露両国民雑居の地とされていたが、樺太・千島交換条約により樺太はロシア領となったため。

問 5

A 北海道旧土人保護法

B アイヌ文化振興法

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 V

問 1

A 平塚らいてう                      B 与謝野晶子                      C 伊藤野枝

問 2

市川は一貫して男女の平等、婦人参政権の獲得に精力を傾けてきたが、その男女平等観から、女性も国家を支える役割を果たすべき存在であると主張した。

問 3

- (1) 戦前の女性は労働に従事し続けたが、戦後は結婚・出産で退職が多くなった。
- (2) 戦前は大家族が多く、女性は家事・労働を担った。戦後は核家族化が進み、男性の雇用が安定し賃金上昇したため、女性は家庭に入り主婦化した。